

II. 出題意図

比較的平易に書かれた英文による、産業界を題材とした、現況求められる異文化理解に関する内容を扱った記事からの出題である。英語の語彙・文法・文脈理解の基礎的力量の確認を行った。自国市場の人口が減少する中、日本企業は中産階級が増加するアジア等の地域で積極的に事業を拡大している。日本国内のローカルな地域企業が、海外へとグローバルな事業展開が顕著になる中で、進出先の異文化理解が求められる。本題材からは、現地の文化や習慣に適応することが必要であると認識できる。

[問1] 解答例

磯部氏は、自国市場以外でビジネスを成功させるためには、文化を理解することが不可欠であるとした。彼は現地のライフスタイルを理解することで、従業員のモチベーションを向上させた例を紹介した。日本では仕事に朝食をとることは禁止されているが、インドネシアのイオンモールにおいては、現地での交通渋滞による長時間通勤のために朝食をとる時間がない実情を知ったことにより、従業員が仕事に朝食をとることを受け入れた。(200字)

[問2] 出題意図

異文化理解に関する英文を讀み的確にその内容を理解した上で、独創性をもって、論理的思考に基づいた具体的な論述ができるかについて確認するため、以下の事柄を評価のポイントとした。

- ・「意識すべき不可欠な事柄」が提示されている。
- ・具体性をもった論述により「意識すべき不可欠な事柄への対処・対応」が示されている。
- ・文章が論理的に展開されている。
- ・論述内容が独創的である。